



海沿いの仮置き場 榎葉町

常磐線竜田駅前のモニタリングの数値は0.2μSV。駅前の住宅地はほとんど人のいる感じはしない。

9月18日よりリニューアルオープンした「天神岬温泉 しおかぜ荘」に寄ってみると、利用料が9月中は無料で、中は大変きれいに整備されているが、それでも人はまばらだった。露天風呂からの太平洋の眺めは最高だが、どうしてもいい気分になれない。建物のわきには原子力産業誘致による補助金で建てられた記念碑がひっそり建っていた。天神岬公園より展望台に向かうと、ぼう大な放射性廃棄物のフレコンバックの山が目飛び込んできた。木戸川の鮎の築場のすぐ手前まで積まれている。町中には、とにかく店が無い。あるのは国道6号線下り方面にセブンイレブン、上り方面にファミマがあるのみ。全国から動員された他県ナンバーのパート

カーも利用していて、大変に賑わっていた。

榎葉町のもう一つの駅、木戸駅の14：46着の乗降者は2名のみ。6号線を富岡町に向かうと山を削っている光景が見えてきて、ちょっと脇道に入ると「フクシマエコテックへの放射性廃棄物搬入断固反対」の黄色い看板やのぼりが建っていた。8000～10万ベクレル/kgまでの焼却灰などを県内一円から集約してここに埋め立て、遮蔽構造はゴムやビニールの遮水シートというとてもないものだ。帰還を強制され、補償を打ち切られ、ふるさととは放射性廃棄物の山となる。こんなこと絶対許せない。

※「榎葉町、帰還者321人、町人口の4%」
(2015. 10. 22福島民友)



伊達市のお母さんから

突然ですが、みなみさんご覧になりましたか？

私にはあの強行採決は衝撃的でした。決まってしまうんだらうな～とは思っていましたが、でも一部の望みは捨て切れず自宅で生中継を見ながら夜中までテレビの前に仁王立ちしながら見守っていました。

テレビでも安保法案についての話題が多くなり、国民感情が高まりデモがあちこちで毎日のように行われました。それに今回のデモが今までのものとは違うのは、若者が自主的に参加していることです。

「このままではまずいと感じ、居ても立っても居られなく毎回参加している」ということを話している学生さんがいました。

私もそうです。説明不足と言われているが、説明を聞けば聞くほど理解すればするほど受け入れられないという思いが強くなったのです。こんなにも反対の声が多いのに、なぜ急ぐのか。なぜあの様な強行な手段を使って成立させてしまったのか尚更不信感が増してしまいました。これは決まってしまったから、もう終わりではないです。皮肉なことに、今回の件で政治に関心を持つ人が多くなりました。これは腐りかけていた日本にとっては修正のチャンスなのかもしれませんね。

編集後記

津田教授の論文の記事は、地元紙のインターネット版からはわずか1日で削除されました。国や県の圧力がいかにすさまじいものであるかを物語るとともに、「ああ、やっぱりホントのことなんだな」という、なんとも言えない気持ちが県民の中に広がったはずです。「アンダーコントロール」のウソが誰にも通用しないことは、「榎葉町の帰還者4%」の事実が示しています。(え)

保養



保養って何だろ？
どんなことしてるんだろ？

山梨の保養報集
できました♪



千葉県 南房総市 岩井での冬休み保養

保養先：2016年1月3（日）～5日（火）民宿小池荘

参加費：宿泊・食費は無料、交通費は負担願います

主催団体：避難プロジェクト@ちば/原発なくせ！ちばアクション

※保養の詳しい案内と報告集のお問い合わせは、お気軽に診療所へお電話下さい。

ふくしま共同診療所 Newsletter



第11号 季刊-秋・冬号

診療時間：9：30-12：30/14：30-18：00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科

〒960-8068

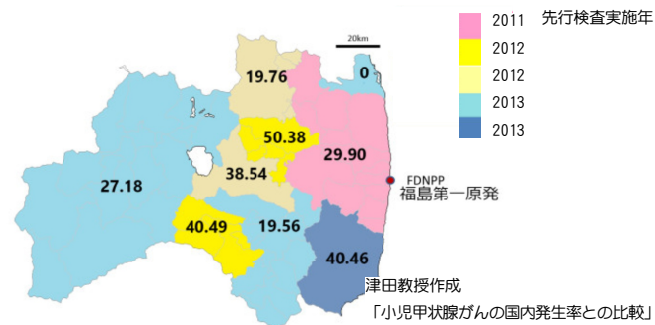
福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

国際的医学誌「福島の小児甲状腺がんは20～50倍の多発。早急に対策を」

岡山大学大学院の津田敏秀教授（環境疫学）らのグループがまとめた福島県内での甲状腺がん発生に関する疫学論文が国際環境疫学会の医学専門誌「エビデミオロジー（疫学）」に採用され電子版にも掲載されました。（10/7付の福島民報や河北新報で報道）津田教授は日本外国特派員協会で記者会見を行い、早急な対策を求めました。

記者会見での津田教授発言



- 小児甲状腺がんの日本全体の年間発生率（19歳以下・100万人あたり年間2、3人）と県内を9つの地域別にわけて比較すると、20倍～50倍の多発である。また、県内でも2.6倍の差があった。（発生していない地区を除く）
- 福島県が発表したデータについて、因果関係を考慮した将来予測、住民への情報公開がきわめて不十分な状態が続いている。
- 事故後3年以内の数十倍の多発は「スクリーニング効果」や「過剰診断」などで説明することは不可能である。今後、チェルノブイリで起こった5、6年目以降の大きな多発は避けられない状況である。（アメリカ疾病予防管理センターは、甲状腺がんの最小潜伏期間は2.5年であるが、子どもは1年で大人より進行が速いと公表している。）
- 詳細な情報を与えるだけで、有害な曝露は桁違いに少なくなる。不要な被ばくを避ける手段がいくらかもあるのに、全く取られていない。福島県に住み続けなければならない人たちほど、そういう知識を与えられるべきだ。

甲状腺・乳腺エコー検査を受けましょう

検査日	土	日	月	木	金
午前 9:30-12:30	♡○	○	○	○	○
午後 2:30-6:00	♡○	○	-	-	♡○

○→甲状腺エコー ♡→乳腺エコー
※土曜日の乳腺エコーは女性技師が担当します

県民健康調査検討委員会で委員から津田教授の参加の要請があったにも関わらず、県の事務局は黙殺しました。30万人もの子どもたちの検査データを県民の健康を守るために使わないばかりか、原発事故後の被ばくによる健康被害を県民個人の責任に押しつけようとしています。

「原子力緊急事態宣言」発令中のまま、福島県民だけが年間20ミリシーベルト基準を適用されているのに、安心・安全キャンペーンのもと高線量地域への住民帰還が強制され、補償が打ち切られることなど絶対に許してはなりません。県民が主体となって行政や報道機関の在り方を見直しさせ、信頼できる医療体制を早急に構築する必要があります。ふくしま共同診療所は、住民とともに、住民の健康を守りながら理不尽な被ばく強制に反対していきます。

ふくしま共同診療所 報告会

と き：12月13日（日）
13時から（12時開場）

ところ：ビッグアイ 7階大会議室
JR郡山駅西口すぐ
※入場無料 託児あります

<講演> 矢ヶ崎 克馬 さん
「内部被ばくの危険性を
隠し続ける原発利益共同体」

*プロフィール
琉球大学名誉教授、理学博士。原爆症認定訴訟や国会参事人として「内部被ばくリスク」の証言に立つ。

<報告> 布施 幸彦 院長
「甲状腺がん多発と
健康被害に向き合う診療を」